

武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会（第1回）

1. 開会（午後7時1分）

2. 委嘱状交付

（邑上市長より、副市長を除く7名の委員に委嘱状が交付された。なお、渡邊委員と井上副市長については日程の調整がつかず、欠席）

3. 市長挨拶

【邑上市長】 本日は、委員会にご出席賜り、委嘱状を受けていただきまして、ありがとうございます。10人の皆様方の日ごろの経験を存分に発揮して、武蔵野市の基本計画の見直しに反映していただけたらと思っております。

第五期長期計画では、「武蔵野から新しい都市像を開こう」という未来志向のテーマ設定をしました。今、全国的には人口減少時代ですが、武蔵野は人口が微増しています。同時に、単身高齢者世帯もふえています。この状況を地域でどう支えていくかが今、市政の大きな課題となっています。調整計画は、市長選挙のたびに見直していただくだけでなく、日々動く世の中の状況を反映していくものです。

調整計画策定にあたって、重視していきたい点は3つです。

まず1つ目は、武蔵野市は、国の制度を運用するだけでなく、その制度のすき間に当たる方々、高齢者、障害者、母子家庭にさまざまな支援をしていくことです。1人ひとりを大切にする、これを武蔵野市の本来の姿として、市政、市民サービスを、より充実できないかと思っています。

2つ目は、自治と連携です。武蔵野市にふさわしい自治のあり方を明確にしながら、自分たちのまちを自分たちでつくっていく。自分のまちだけがよければいいのではなく、地方や周辺の自治体と連携し、お互いに補完し合って、それぞれの都市が成長、発展できる自治体になればと思っております。

3つ目は、武蔵野らしさを磨いていくということです。武蔵野は、市政67年の歴史があります。武蔵野村から数えれば、今年で125年です。蓄積された歴史を大切に、磨いて将来につなげていくことも必要です。

こうした視点でのまちづくりを進めると同時に、制度や経済、人口の問題を含めてどうすれば持続可能な都市づくりを目指せるのか、幅広い視点でご議論いただければと思っております。

2カ年にわたる今回の計画策定は、市民参加・議員参加・職員参加でつくり上げていくものです。皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

4. 委員自己紹介

【井出委員】 私は市内の大学の経済学部におります。勤続21年で、武蔵野市民でもあります。

私は、まず安心・安全が、住んでいく上で何よりも大切だと思っています。特に個人的な研究課題でもあるインフラの老朽化対策の問題とか防災、エネルギーや交通関係について一生懸命考えていきたいと思っています。

また、魅力と活力のあるまちということも重要です。吉祥寺、三鷹、武蔵境の地域の独自性を生かし

たまちの活性化、緑の保全、環境、全てのベースにあるのが、みんなで支え合う共助です。以前の長期計画と、今回の市民会議の資料を拝見いたしました。皆さん、コミュニティの強さ、人のつながりについての意識が高く、積極的に考えていらっしやって、正直大変驚きましたが、既にある取り組みの幾つかがあまり認知されていないことにも気づきました。課題はどこにあるのか、きちんと検証して、もっと広げていく必要があると思った次第です。

私が個人的に注目しているのは、都市基盤です。吉祥寺南口の再開発、公会堂、自転車問題は、きちんと考えていかなければいけないと思っております。また、最近マンションがたくさんできて、新しい住民がふえる一方で、高齢化が進み、地域の担い手がないという現状があります。新しい方々が地域の中でどう積極的にかかわっていくか、その仕組みづくりから私は始めたいと考えております。

【小林委員】 私は吉祥寺に住まいがありまして、通算で45年、武蔵野市に住んでいます。私の専門は文化政策や文化行政です。文化でまちづくりというと、どうしても文化で観光振興、教育委員会関係で文化施設を運営するというイメージを持たれます。そういう狭い範囲ではありません。文化政策とか文化行政は、行政の内部での組織の動き方とか政策の実践の方法を研究するもので、地域の諸問題を文化で解決するとしたらどうすればいいかということに私は関心を持っています。

武蔵野市の仕事には、まだ不慣れですが、ひっそりと、だけど言うべきときは言うという形で参加していきたいと思っております。

【夏目委員】 私の専門は会計学です。大学では連結財務諸表論、税務会計論などを講義しています。もともとは民間企業の会計学、企業会計が専門でした。公営の事業体や非営利事業体の会計は、実は専門外というか応用領域ということになります。

何かのサービスを要求すれば、当然それに見合う税をどこかで誰かが負担するという考えから、公益事業体にも民間の経理システムが導入されるようになりました。東京都でも連結財務諸表をつくっていますし、武蔵野市も、財政制度をより積極的、先進的にやっておられると伺っています。また近年民間では内部監査制度が厳しくなっておりますが、こうしたことも公営事業体に応用させていこうという動きがあります。いろいろな意味で、公営事業体の会計、特に武蔵野市の財政施策にも関心を持っていきたいと思っております。

【松本委員】 私の専門は、福祉です。福祉の中でも、メンタルヘルスの分野を研究しています。今、鬱をはじめとしてメンタルヘルスのバランスを崩したり、病気になる方が大変増えています。医療やリハビリ、カウンセリングだけではなく、病気や障害を持ちながらも、そのまちで暮らしていけるシステムづくりの研究と教育をやっています。また、大学の教員であると同時に、精神保健福祉士という国家資格を持つ専門職でもあります。

こんなに大変な策定委員会を、なぜもう一回受けたのか。それは、自分たちが立てた計画がその後どうなっているか見たかったからです。申し遅れましたが、私は第五期長期計画策定委員の生き残りの1人です。ただ、策定が終わった後、五長から離れてしまったことを大変反省しております。五長はどう動いたのか、実効性はどうかを調整計画まで見届けるのが自分の役割かなと思っております。

私は、この策定委員に市民として参画しています。当たり前のことと思われるかもしれませんが、前回の五長でつらかったのは、時間的な制約ではありません。市民の方からのバッシングに、しんどい思いをし、専門家でありながらメンタル面で大分追い詰められました。「こんな偉い学者先生たちではな

くて、市民でつくってほしかった」と何度も言われ、そのたびに、とてもせつない思いで聞いていました。ただ、市民参加ではなく学者参加だとたかれるのは、一長のときからだったようですので、伝統なのかなとも思いますが、私は、福祉という自分の専門性を発揮しつつも、研究者としての立場ではなく、あくまで市民として、皆さんと一緒に計画策定に参加していきたいと思っております。

【麓委員】 私は、民間企業の立場から加わらせていただきました。女性の活躍というところが専門で、論文を書いたり学会発表をしたり、研究者としてもやっております。国が掲げている 2030 という目標に対して武蔵野市はどうだったか、男女共同参画センターはあったのか、女性の多様な人材をきちんと育成登用していらっしゃるのかというところから見させていただきたいと思います。また、私は記者として、三鷹市は何度か取材させていただいたのですが、これからは武蔵野市の産業振興、雇用創出の面にも注目していきたいと思います。

また、私は実は今年、武蔵野市に貢献しました。息子夫婦が武蔵野市に引っ越し、孫が生まれ、市民を3人増やしました。赤ちゃんを久しぶりに抱きますと、育児の大変さがよみがえってきます。武蔵野市の住民のあり方は、多様であっていいと思っています。男は仕事・女は家庭でいくのか、男も女も仕事も家事も目指すのか。私は、人口消滅都市にしないためには後者が重要と思っています。微力ながらお手伝いさせていただきたいと思います。

【井原委員】 私は武蔵野市で生まれて、武蔵野市内の小中学校を卒業し、高校を卒業した後、ちょっと別のところに行ったりしましたが、また武蔵野市に戻ってきて住んでいます。妻も働いているので、父母会、小学校、中学校のPTAは基本的に私が出るというやり方を通してきました。武蔵野市の中で感じてきたことをいろいろお話していけたらなと思っています。専門分野が特にあるわけではありませんので、皆さんにいろいろと質問させていただいて、そのことで少しでも話が深くなっていく、もしくは市民に伝わっていくといいなと考えています。

【本田委員】 私は、武蔵野は子育てしやすいまちということで、大きなマンション群に引っ越してきました。文化施設も緑も公園も多くていいんだろうなと思って武蔵野市に来たのですが、保育園がないのです。そのために、仕事ができない、仕事をやめざるを得ないお母さんもいるということで、保育園増やし隊をつくって、市や市議会に働きかけてきました。仕事では、医療制度とか社会保障のあたりを勉強しています。

市の事情は随分変わってきています。数字だけでなく、生活そのものを見つめることから計画の見直しをしていきたいです。

【五十嵐委員】 私は、市の職員として武蔵野市政にかかわって約 37 年になります。とはいえ武蔵野市政の端から端までわかっているというわけではないのですが、職員の発想、立場から、良い面も悪い面も両方を出していければと思っています。

少子高齢化で市の財政は右肩上がりとは言えない中、すでに武蔵野市は比較的たくさんの公共施設をつくってきました。特に、学校施設は公共施設の約半分の面積を占めています。今回の調整計画では、公共施設と学校のあり方については大事な課題になっていくと思っています。

また、第五期長期計画の議論では、地域コミュニティのことが前面に出ていました。この調整計画でも、いろいろご意見をいただければと思っています。文化はE委員がご専門ですが、私も、武蔵野市

の文化行政のあり方について、この委員会を通じていろいろ議論ができればと思っております。

5. 事務局紹介

(総合政策部長以下8名の企画調整課職員と、11人のワーキングメンバーが紹介された。
ワーキングメンバーは2名欠席)
(市長、退席)

6. 議事

(1) 委員長、副委員長選出

(企画調整課長が、資料3「武蔵野市長期計画条例」について説明した後、互選により、
夏目委員が委員長に選出された。)
(夏目委員長の推薦により、松本委員が副委員長に選出された。)

【委員長】 大変な立場に携わらせていただくことになりました。よろしくお引き回してください。

私は、昭和22年の生まれです。武蔵野市と同級生です。昭和44年に初めて市民となりました。その後、仕事の関係などで一時転出しましたが、昭和56年に800倍を超える桜堤団地の空き家募集に当選して再び市民になりました。団地の建て替えで練馬に転居したりしましたが、2010年の暮れに民間譲渡された桜堤のマンションに引っ越しました。今は、職場も住まいも武蔵野市ということになります。

市の仕事は、私が専任教員になったばかりのころ、当時の学長、衛藤瀋吉先生から「市民会館の運営委員をやるように」と言われたことがきっかけで、携わらせていただくようになりました。平成15年に社会教育委員になりまして、16年から4年ほど、社会教育委員会の長も務めさせていただきました。その間、プレイスをどう使いこなすか、市民の意見をまとめて答申をつくるという作業にもかかわらせていただきました。今は、大学生と一緒に、武蔵野市教育委員会主催の土曜学校で小学校5～6年生を対象にした経営学教室を実施しております。

市長は、武蔵野市の3つのポイントというお話の中で「制度のすき間」という言葉を使っておられました。高齢者、障害者、母子家庭の課題に向き合うことはとても大切なことと思いますが、これらの課題のほかに気になっていることがあります。社会に出た若者が再チャレンジすることのできる仕組みの構築です。就職した企業で一生勤め上げるというライフスタイルは徐々に変わってきています。武蔵野市の基本計画には、「武蔵野から新しい都市像を開こう」というキャッチフレーズがあって、私はこれに非常に魅力を感じています。例えば、ムーブス1つにしても武蔵野市発の試みで、今は全国に広がっています。教育の面でも、武蔵野市は、市内及び近接大学の知的資産を十分に使いこなせる状況にあります。再チャレンジを目指す若者達の技術取得や再教育、大学院を含む高度な学習や資格取得を支援できるのではないかと考えています。単位も取得できるグレードアップした自由大学を武蔵野市発として実現できないか、そんな夢を持っているところです。

【副委員長】 五長は、難しい計画だったものですから、役に立てたという手応えもありませんでした。それでも再び、市民参加・議員参加・職員参加の武蔵野市方式を継承してきたこの長期計画にもう一回携われるというのは、私にとって本当に光栄です。

幾つか携わった自治体の仕事の中では、武蔵野市の五長が一番楽しかったです。最近やった仕事の中でトップファイブに入るぐらい、この仕事が好きでした。個別計画はその分野しか審議することができませんが、長計は全体を見ることができます。市の行政あるいは財政まで、広い視野で見ることができるというのも魅力でした。事務局がつくった計画案をたたく形ではなく、自分たちも一緒につくっていきけるというところが大変魅力的でしたので、長丁場になりますが、頑張らせていただきます。

(2) 策定委員会の運営について

(企画調整課長の説明を受け、以下のとおり決定した。)

- ・委員会は、原則公開とする。(少人数での作業部会は非公開)
- ・委員会の傍聴を認める。
- ・議事録は、要旨を公開する。
発言者は委員長、副委員長、A委員、B委員と表記する。

【A委員】 傍聴要領のような感じで、会議録作成要領のような資料はないのですか。

【企画調整課長】 会議録の作成要領のようなものは用意してございません。議事要旨は、各委員に送付してご確認をいただいた上で、ホームページ等で公開させていただきます。

(3) 庁内体制及び策定スケジュールについて

(傍聴者、入室)

(企画調整課長が、資料5、資料7、資料8、資料9に基づき、庁内体制及び策定スケジュールを説明した。)

(平成27年2月開催予定の圏域別市民意見交換会について日程調整がなされた。)

【委員長】 いよいよ動き出しました。委員の皆さん、これからよろしくお願ひします。事務局からの詳細な資料と説明に対して、ご質問がございましたら、どうぞ。

【B委員】 資料9のスケジュールのうち、2月の日程の具体的な時間帯を教えてください。

【企画調整課長】 全て午後1時から4時です。

2月21日の関係団体意見交換会は、午前が9時から12時、午後が1時から5時の予定です。

【B委員】 日程調整していく上でどうしても出られないときが出てくると思うのです。できる限りご協力するのですが、絶対に出席しなければいけない日はありますか。

【企画調整課長】 市議会とのやりとりは、どのような質問が来るかわかりませんが、時間も長いのですが、様子をごらんいただきたいと思います。

2月9日は、委員長、副委員長にはぜひご出席いただきますが、あとの委員の方は時間が合えばで結

構です。

平成 27 年 11 月の市長への答申は、委員長、副委員長及び参加可能な委員の多い日にちを考えております。

【C委員】 武蔵野市方式の特徴である職員参加は、いつから始まり、どういう立場なのですか。その意義も教えてください。

【企画調整課長】 職員が組織として対応するのは、庁内推進本部を通してになります。職員個人として意見が出せる機会も設けています。ただ、職員全体が策定に参画しているという全庁を挙げた姿勢をどう出すかは、内部でもう少し検討します。

【C委員】 職員の方は全部で何人いらっしゃるのですか。

【企画調整課長】 950 人くらいです。

【A委員】 まず、圏域別市民意見交換会、関係団体意見交換会で保育体制をとってください。

2 点目として、圏域別、関係団体、ともに意見交換会は土曜、日曜の日中ですが、平日も設定していただいたほうが良いと思います。PTAのお母さん方が、土日だと旦那が家にいて、その世話があるから外に出られないと言います。エッと思われるかもしれませんが、そういうものなんです。女性参画は、女性が仕事をするということだけではありません。時間をつくらないといけない僕らのほうの覚悟も必要になりますが、市民意見を幅広く聞く場に女性が参画できるように、平日の午前中という設定もしていただいたほうが良いと思います。ただし、幼稚園は、水曜日は午前保育しかないので、水曜日は難しいという意見も出てくるかと思えます。幼稚園関係の方にも聞いてみてください。

3 点目は、職員参加です。討議要綱公表のところに個人意見の聴取やグループインタビューがありますが、僕は、課題整理のところで、職員の皆さんのご意見を伺いたいです。実際にお仕事をされて、さまざまな計画を推進されていく上で何か障害や課題があったのかどうか、知っておきたいです。急ですが、事務局のほうでご検討ください。

【企画調整課長】 保育体制は、団体別のほうはとる予定にしています。圏域別のほうにつきましても検討します。

市民意見交換会の日程は、皆さんでご意見をいただければと思います。

職員の意見聴取は、より多くの意見がとれる形と、組織として意見を出す形の 2 本立てを検討しています。

圏域別の市民意見交換会は、前日も平日の夜に 1 回やっています。

【C委員】 A委員の、土日に旦那がいると女性が出づらいというのはよくわかるのですが、男が家にいると女が世話をしなければいけないという文化は、私はちょっと古いと思います。それを変える意味では、例えば保育体制をとるというのもあると思います。

また、3 エリアを違う条件でやるということは、エリアの公平性からするとどうなんでしょうか。

平日の昼間は、出づらい人が、より多くなります。私は、そのままだでもいいのではないかなという意

見です。

【A委員】 本当は、家に旦那がいるなら出やすいのではないかとこのところなので、おっしゃることはよくわかります。できれば、あすにでもこの日程を周知して、この日は旦那も家にいて子どもを見てくれ、そのぐらい市民の感覚というか僕ら男の側の考えが変わらないといけないんです。

【副委員長】 前回も同じ議論が出て、土日ではなくて平日の夕方という設定の工夫をしたことがありました。土日に仕事している人の参加の機会をふやしたいという意味も兼ねてだったと記憶しています。

【委員長】 確かに、旦那の世話ということよりも、働き方が今はさまざまになっています。土日がみんな休みというわけではないので、そういうご意見が出るのは至極当然の気もいたします。

【D委員】 地区ごとの公平性といっても、市内ですし、遠くまで行くわけではありません。平日の昼か夜を1回入れたほうがいいかなと思います。

【C委員】 夜のほうが参加される方が多くなります。

【E委員】 私も、お昼でも夜でもいいので平日を1日入れたほうがいいと思います。D委員がおっしゃったように、狭い地域ですし、関心の高い市民は、ほかの地域を見に行くということもあり得ます。また、私も旦那の世話の問題よりも、働き方の違いで、土曜日2回というのは非常にづらいなど、最初の打診があったときに思いました。

【企画調整課長】 2月7日あるいは14日のどちらかを金曜日とさせていただき、出られる委員の多いほうの会場を当たります。1週ずらして、2月20日も候補にします。どちらにしても3駅圏で各1回の計3回で、委員長、副委員長の日程を優先して調整します。

(4) 各委員から市政に関する課題について意見交換

【委員長】 残りの時間で、委員の皆さんの市政に関する課題認識についてのご意見をお聞かせください。

【B委員】 市民の力、共助をどうやって強めていくのかというのが、全てのトピックにかかわることだと感じています。

武蔵野市はほかの地域と違って、自治会がほとんどなくて、コミュニティセンターを中心にした独自の仕組みとなっています。ただ、コミュニティセンターによっては、非常に積極的、自発的にやっているところと、ほとんど施設管理者になってしまっているところと、ばらつきがあります。コミュニティセンターを中心としたコミュニティ構想も、最近は余り聞きません。市民の意見を聞くシステムとして特別なものをつくらなくても、コミセンを通じてできた市民のネットワークから常時上がってくるのが理想的だと私は思います。

コミュニティ構想についての現状と、どういう課題があるのか、教えていただけますか。

【企画調整課長】 今、これからの地域コミュニティの検討委員会が、パブリックコメントをとって検討を進めています。

コミュニティ構想自体はまだ生きていまして、自主3原則のもとで運営をしています。ただ、やはり担い手の高齢化、固定化という課題があります。

新しい方を巻き込んで、地域のつながりをつくっていくということでは、今、地域フォーラムという提案をしております。

次回の「これからの地域コミュニティ検討委員会」の資料と合わせて中間まとめを委員の皆様にご配付します。

【E委員】 私もコミュニティの問題は非常に興味があります。

コミュニティセンターは、安全・安心なまちをつくっていく上で非常に重要だと思っています。ハードで何とかしようという時代はもう終わっています。ソフトのつながりをどうやってつくっていくかというときに、文化が大事になってくるわけです。今のような芸術文化を中心とした文化施設運営だけではない、人をつなぐ文化施設のあり方みたいなことも考えていってほしいです。私は、そのところにかかわっていきたいです。

また、今のコミュニティの問題と文化施設みたいなものがすごく離れてしまっていることが気になっています。それは武蔵野文化事業団の評議員会に出ていて感じることもあります。武蔵野文化事業団のやっていることは、全国的に見ても評価に値することですから、今後も続けていってほしいし、むしろそれを強みとして生かしていくぐらいのことが必要だと思うのですが、それと市民意識とか市民需要との間にギャップがありそうです。何か総合的にできる形がないかなと思っています。

もう1つ、私の住んでいる吉祥寺は、住みたいまちナンバーワンと言われていますが、長く住んでいる人たちは、世の中の評価とは相当離れた感覚を持っています。吉祥寺を住みたいまちとしてイメージアップしてきたのは、マスコミと商業地域の方々の熱心な努力によるところが大きいと思います。本当の意味での武蔵野らしさ、先進的で、文化人やアーティストがたくさんいるまちという部分を上手に取り結びながら、武蔵野文化みたいなものを発信していかないと、幾ら吉祥寺は住みよいまちといっても、いずれ飽きられることは目に見えています。市政65周年のシンポジウムのときも、長く武蔵野に住んでいらっしゃる方々は皆さん同じような気持ちだと思いました。

これからは自治体間競争みたいなものも激しくなってきます。人口が微増だからいいという単純な話ではないのです。武蔵野に住みたい、来てみたら子育てもしやすい、買いかえも武蔵野市内にして、ずっと住みたいという、選ばれる市になっていく必要があると思います。

また、職員の方がどれだけ楽しいと感じて働いているか、どんなところを課題に思っておられるかということは、すごく大事です。ここで働いている職員がキラキラしていなければ、武蔵野文化はつくれないと思っています。仕事上の公式見解みたいなことは、私たちはこれからたくさん伺うことになりませんが、個人のご意見はなかなか聞く機会がありません。先ほどA委員が、事前に職員の方の個人的な意見を聞けないかとおっしゃったことに私も賛成です。

【C委員】 私は女性の参画、社会進出、男女共同参画社会を問題意識としています。安倍政権は、成長戦略の1丁目1番地に女性の育成登用、多様な力を生かすということを掲げていますが、第五期長期

計画の冊子の目次には、女性の登用とか参画、男女共同参画社会が1つありません。私が見落としたんでしょうか。

【企画調整課長】 38ページの左側です。体系図としては82ページの左側です。

【C委員】 「(2)男女共同参画計画の推進」だけですよね。本当にびっくりしました。

私は、きのう福井県に講演に行ってきました。県ですから武蔵野市とはちょっと違うのですが、女性のエンパワーメント事業やカウンセリング事業など、女性が出ていきにくいところを行政がきめ細かく後押ししていて、感激したのです。ところが、自分のふるさと武蔵野は、これだけしかないのかという感じでした。生産労働人口が減っていく中で、男は仕事・女は家庭では成り立ちません。女性のためだけでなく、市民のあり方として、課題感を持っています。

産業振興はどこに書いてありますか。

【企画調整課長】 産業振興は文化・市民生活ですから、40ページです。

【C委員】 お隣の三鷹市は、サービス、モノ、カネを用意して産業振興しています。武蔵野市の産業振興は文化・市民生活ということですが、産業振興は文化・市民生活とは違うところにあるような気がしますので、そのあたりを問題意識として見ていきたいと思います。

【A委員】 私は、市民会議のときに、基本的に全てコミュニティ構想のところから話を出発させていました。武蔵野市では、コミュニティというと、基本的にコミセンという建物の名称で全て片づけられています。コミュニティ協議会という名称は、市民には全然認知されていません。人と人のつながりも、コミュニティ構想の課題や政策提案は、すごく難しいと感じます。

また、武蔵野市に限らず、この国の人たちは、行政や政治家に物を言うことに腰が引けています。僕は物を言うことは特別悪いことでもないし、恥ずかしがることでもないと思っています。この国が法治国家である以上、法律をつくったり行使する方々に、僕はきちんと物を言っていかなければいけない。それは、僕らは法律のために生きているのではなくて、僕らが生きるために法律があるはずだからです。

市民会議でも、長期計画を紙で配るのはやめてほしいと言ったばかりですが、市民1人ひとりが小さなハンドブックで持つぐらいのまちにならないかなと思っています。「行政計画」と僕も言うのですが、「市民計画」にならないのか。災害時には、自助・公助・共助と言われていています。計画には、自助・共助で市民が主体的に動かなければ進まないものがたくさんあります。このまちに来て嫌な思いをしたから計画書を読んで物を言うというだけではなくて、コミセンに出入りするいろいろな方からの課題や提案が役所に上がっていくようであればいいなと思っています。例えば、小学校で武蔵野市のことについて勉強する学年にはこの1冊を配る。そのためにも、小学生が読んでもわかるような言葉で書いていただきたいのです。それがだめなら、ハンドブックをつくって、武蔵野市にはこういう計画に大人がこうかかわって、君たちが主人公だというものを、全員でなくていいから配布する。武蔵野市には、小中学生が主人公になる場面がたくさんあります。防災に関しては中学生の力が必要だと言われています。子どもたちが小学生のうちから行政や、まちの運営の仕方に興味を持って、大人になったときにきちんと意見を言い、いろいろな提案ができるということを目指せないかなと思っています。

ワークショップの報告書では、さまざまな課題、提案が出されています。でも、武蔵野市はそんなに

不便なまちではないので、「まあ言わなくてもいいかな」で済んでしまいがちです。問題意識が薄れていってしまうところがある。一方で、言ってやりたいという思いを持ち続けている市民もいます。どんなに課題や提案があっても、全部実現はあり得ないですし、お金にも限界があります。市民1人ひとりが集結して、話し合った上で、理念と理想を一致させて、できること、今はまだできないけど1人ひとりの力で何とか解決できることというぐあいに、選択肢を持っていく。それが調整計画の端緒になっていけば、うれしいです。

【D委員】 私の課題認識は、やはり保育の問題です。先ほど委員長がおっしゃっていた再チャレンジが、課題になっている事例があるのです。例えば、大学に入り直したい、転職をしたいというのは、保育料を払わない罰則に等しいマイナス点がつきます。まちの魅力になっている昔からの小さな商店や、エッジのきいた雑貨屋さんも、保育園に入りにくい仕組みになっています。

保育需要の増加は、市のほうで以前にかなり詳細に予測されていたのです。それがなぜこういうことになったのか、しっかり見直して、次に生かしていかなければならないと思います。

あと、国保の地方移行が検討されていたり、介護の問題もそうですが、これから国の政策との関係で、地方自治体の采配次第みたいな部分が多くなります。ここも課題として見直していかなければいけないと思っています。

【F委員】 武蔵野市は、コミュニティ構想を早くからつくって、やってきました。今は、頑張ってやってきた方々が固定化、高齢化しているということも言われています。私は市内には住んでいませんが、職員として、一市民の自分はどうかかわっていくかという原点に帰ったところでの率直な議論が必要なのかと思います。あるべき論になると、どうしても理想論で突っ走ります。頑張る方とのギャップを感じて、やりたい人がやればいいんじゃないかという意識になります。地域コミュニティは、市民自治、市民がまちの主人公ということで、行政とは裏腹であり、根幹に関わるものです。長い目で見た地域コミュニティのあり方を、調整計画という観点でどう考えていけばいいかというのが、私の問題意識です。

男女共同参画とか女性の登用、参画の視点が欠けているのではないかという意見に、なるほどという思いでした。私自身、人権問題は行政として積極的にやらなければいけないというのは、よくわかっているようでいて、具体的に何をどうやるかについては、認識が不十分かもしれないということを感じました。

職員が生き生きと楽しく仕事をする大切さというの、全くそのとおりです。同時に、自分の職員人生で生き生きと楽しくやってこれたかという、必ずしもそうでなかったりしています。現実には現実として見つめながら、理想についても語り合い、ギャップを縮めていけるように、調整計画の議論に私なりの参加ができればと思います。

【副委員長】 五長の策定委員になってから、まちの何を見ても気になってしょうがないです。電車の窓から煙突が見えればクリーンセンターのことを考え、道を歩けば、その地下に埋まる水道管が心配になります。小学校や中学校の耐震化が進んでいないと言っていたのはどうなっただろうということも気になりました。

私は、前回担当した健康・福祉分野では、この市内で命をつないでいけない人がいるということの問題意識としていました。今、孤立死、孤独死が問題になっています。みずから命を断ってしまう、あるいは断ってしまおうとした人、断とうとしている人は山ほどいます。貧困問題もあります。虫歯ができ

でも、病気になっても、保険料を払えないから病院に行けない子どもがいます。家族の介護をしているために学校に通えない子どもたちがいます。さまざまな問題が、武蔵野市にはないとはとても思えません。武蔵野市のいろんな課題の中でも、私は今回も、命をつなげていける自治体であることを大事にしたいと思っています。

計画書の厚さについては、前回もかなり議論になりました。もっと薄くて、多くの市民に持っていただけのものにしようという意見も出たのですが、総合計画という性質上、これ以上縮めるのは無理でした。五十幾つの個別計画の方向性を示し、全体を網羅して、これから武蔵野市が進むべき方向性を示す書き込みをすると、どうしても厚くなります。今回はそこを工夫できたらいいなと思っています。

市民参加は、福祉の世界では「住民参加」と言っています。これだけ高齢化が進んで、定年退職している人も多くいて、税金が減り、社会保障費が膨大になったら、幾ら豊かな武蔵野市であっても、今までのようにはいかなくなります。住民の福祉を守り、推進するのは、自治体だけでは、とても無理です。市長は「連携」という言葉を使いましたが、私は「協働」という言葉を使っています。NPOなど市民団体に対して自治体はどうアプローチをしていくのか、市民の役割は何かを考えていきたいです。市民が行政をバッシングするのは、一方では必要ですが、余り建設的ではありません。新しいものが生まれる方式だとも思えません。前回の五長でも、市民教育について大分議論しました。市民はどうなっていくべきで、市民は行政をどう捉えていくべきか。市民が自分のまちを担う1人としてどう歩いていくのか。今すぐは無理でも、一緒に考えていけるような武蔵野市になるといいなと思っています。この策定委員会でも、行政バッシングではなく、自分の役割を明確にしながら学び、取り組んでいきたいです。

【委員長】 皆様のご意見として、自治の問題が重要な視点として挙げられていました。これは、A委員もおっしゃられたとおり、立法の問題と密接に関わります。

法律の世界では、朝令暮改は立法の悪例とされています。民主政治のもとでは、朝令暮改のようなことはないと思いますが、一方で、民間企業の経営の立場からすると、トップマネジメントが朝令暮改をできないようでは、重要な意思決定を間違え、自社を倒産させてしまうかもしれません。海外展開を検討しているどこかの国で、突如戦争が起こったとしたら、直ちに方針を見直す必要があるでしょう。今朝、新製品を開発すると言ったことも夕方には中止命令を出すということも起こり得るのです。しかし、公的なセクターでは、課題は見えていても、なかなかこのようなやり方は出来ません。やはり民主的な法律の手続きに従って決めていくという手法が大切なこととなります。そこを崩さないようにしながら、市民として堂々と主張していくことが、より高度な市民意識を醸成する上とても大事な原点だと思います。

また、市職員の方の意見を吸収し、楽しい職場にというご意見もありました。まったくそのとおりだと思います。ただ、市役所の職員の方は、皆さん必ずしも武蔵野市に住所があるわけではありません。この点に関して、私は学生にコーポレートシチズンシップという考え方を持つように話しています。住所がどこであれ、武蔵野市に通勤・通学している以上は、武蔵野市民として行動することが求められます。市の職員の方からご意見をいただくときは、行政の専門家としての意見だけでなく、武蔵野市を自分のまちと同じように愛する市民としての目線からもご意見をいただけるものと私は信じています。

多様な価値観ということでは、女性の参画、男女共同参画社会の実現の課題とともに、市民会議のご議論でも出ていた外国人の受け入れ態勢の課題もあります。オリンピック招致は良い機会でもあります。多様な価値観の受容という意味での武蔵野市の国際化の課題について、調整計画策定段階でどのように

織り込むことができるのか、今後の議論を深めたく思います。。多様性に十分対処できるまちづくりと、豊かな武蔵野市の未来を想定して、副委員長がおっしゃられた、命をつなぎ、孤独死のない武蔵野市をみんなで作っていかねばと思った次第です。

【企画調整課長】 市政施行 65 周年シンポジウム「文化が生み出す都市の魅力とは」は、報告書ができています。

職員の個人意見の話は、よく協議をして、早目に結論を出します。

第五期長期計画の冊子についてですが、こんなに薄い総合計画はないと聞いていました。この3倍ぐらいの厚みの冊子にしている自治体もあります。概要版をつくと、逆に理念的になってしまうので、武蔵野市は書き込みも最低限にしたこの厚さになっています。

(5) その他

(第2回策定委員会以降の日程調整がなされた。)

第2回策定委員会	現場視察のため日時は委員と調整
第3回策定委員会	10月10日(金) 午後7時～ 市役所412会議室
第4回策定委員会	11月7日(金) 同上 場所未定
第5回策定委員会	12月12日(金) 同上 場所未定

【委員長】 これで第1回策定委員会を終了いたします。

閉会 (午後9時20分)